

# POPPY EYE®

Magazine for City Boys  
2018 DECEMBER Issue 860 ¥840

12



# CRAFTSMANSHIP

(ジョン スメドレー) の股引きは現行品にはないが、同じくらいクラシックなのがヘンリーネック。1900年代から肌着として愛用されている。(MASUNAGA G.M.S.) は献上品をルーツにしたコレクション。現代の素材と技術を総動員し2005年に始動。ヘンリーネックセーター ¥34,000 (ジョン スメドレー/リーミルズ エージェンシー ☎03・5784・1238) メタルフレームの眼鏡 ¥32,000 (MASUNAGA G.M.S./MASUNAGA1905 ☎03・3403・1905)



Craft #60

ジョン スメドレー  
ヘンリーネックセーター



ビキューナの股引き

(ジョン スメドレー) のアーカイブに現存。ビキューナの股引きは1914~'18年に製造したみたい。貝ボタンやシルクの当て布、内腿や裾の部分は編み方を変えていたりと、細部までぬかりなし。素材は違えど、ニットの股引きは'30年代まで流通。

Image Courtesy of John Smedley Archive Charitable Trust. Long John' vicuna underpant, made by John Smedley for export to Japan in 1916



セルロイドと金無垢の眼鏡

昭和天皇が福井県を訪れた記念に、献上された眼鏡は計3本。セルロイドと20Kの金無垢で作られたものだった。同様のセットが同社に保管されているが、経年で劣化するはずのセルロイドは今でも曇りひとつないという。格別の質の高さはここにも。



Craft #61

マスナガ G.M.S.  
メタルフレームの眼鏡

平成もいよいよ終わりに近づいて。年号や皇室についても、なにかと思いをいたすこともあったりして。さすがに「平成最後の」みたいなことは、なんだか恥ずかしくてできないが、まつわるクラフツマンシップには、興味があつたりして。

例え(ジョン スメドレー)のニットの股引き。なんと素材はビキューナ(ー)だ。南米の高地のみに生息するラクダの仲間で、その毛はカシミア以上に軽く、暖かく、肌触りもビジョーに滑らか。あまりにも希少で高級(コートなら高級外車を買えちゃう)なため、1910年代後半に特別な顧客への特注品としてのみ作られていたらしい。そしておよそ50年前のイギリスの地元紙。当時の元従業員によるコメントが残されているみたいだ。「日本の天皇陛下のためにガジェットを製作した」。点と点が線になる。年代から考えると大正期の献上品ということになるだろう。いずれにしても、ブランドのアーカイブに大切に保管されていた実物が、何よりもその証拠。風格がすごいです。

そして眼鏡。こちらは推理をしなくても、はっきり記録が残されている。1933年、福井に行幸された昭和天皇に献上した、セルロイドと金無垢の品だ。手掛けたのは「増永眼鏡」の腕利きの職人で、毎朝、襦袢をして白装束に着替えて製造していたという逸話が残されている。

いずれも僕らには届かぬ品だ。けれど最高の職人が腕と素材によりかけたという物語には胸が高鳴る。経済のトリクルダウンは幻だが、技術と経験はきつと今に生きているし。